

# 富キャン Express

## Vol.32



～ The emblem of HAKUOH UNIVERSITY ～ 白鷗大学足利高校富田校舎広報

The checker means five continents, the stripe means three oceans, and they express the posture that we'll have a good look at the world widely.

PLUS ULTRA

### 女子サッカー一部 秋季関東大会第4位

10月23日から行われた関東高校女子サッカー秋季大会に出場しました。1回戦は神奈川県第2代表の桐蔭学園と戦い、一進一退の攻防を繰り広げ、0-0の後、PK戦で勝利しました。2回戦では東京都第1代表の国分寺高校と戦いました。前半、キャプテンの文理3の4の柿沼里奈(大平南中)が右足でシュートを決め、1-0で勝利することが出来ました。準決勝は、千葉県第1代表の幕張総合高校と戦いました。一人ひとりの能力が高く、フィジカルコンタクトも強いいため、攻め込まれる時間が長くなり、3-0で負けてしまいました。翌日、3位決定戦に臨み、茨城県第1代表の常磐大学高校と戦いました。速いパスワークから、ボゼッションを優位に進めた結果、ゲーム全体をコントロール出来ていましたが、前半アディショナルタイムに失点してしまい、前半は0-1で折り返しました。ハーフタイムでは、選手全員で修正箇所を話し合い、後半に臨みました。相手ゴール前までのアイデアを増やし、一人ひとりの個性・技術が通用する部分を多く見て取れました。しかし、決定力に欠けカウターで失点してしまい、0-2で敗退してしまいました。



3位決定戦にて

関東大会で第4位になり、各都県の強豪校と互角以上の試合を展開できたことは、選手たちにとつて大きな自信になりました。今後、「関東で戦えるチーム」を目指し、部員一同、努力を続けていきたいと思ひます。



フクダ電子フィールドにて

### 囲碁・将棋部 関東一全国！ 両部門上位大会進出！

藤井四冠誕生のニュースが全国を駆け巡る中、当部でも若手活躍の時流に乗るべく、各地で開催された大会へ積極的に参加しました。

9月11日、第32回関東地区高文連将棋大会栃木県予選が行われました。本校からは進学2の1の大栗さやかさん(国分寺中)が女子の部・第2位、同じく進学2の1の田部井紗世さん(田沼西中)が第4位となり、共に関東大会進出の切符を手に入れました。これは昨年度に続く、二年連続での快挙となります。12月19日に埼玉県さいたま市にて開催される関東大会では、上位進出を目指します。



試合に臨む丸山さん



関東大会に出場が決まった田部井さん(左)と大栗さん(右)

また10月30日に開かれた第30回全国高文連将棋新人大会栃木県予選では、上位大会進出枠が一つ減ってしまった中、関東大会進出の強い流れをそのままに、大栗さやかさんが女子の部で第2位となりました。そして、1月27日より徳島県徳島市にて開催される全国新人将棋大会へ出場が決まりました。8月の全国総合文化祭で挙げた1勝を超え、勝ち進んでいくためにも、今後は序盤から中盤での最新型の戦略を研究し、ミスのない展開をするための方策を探る日々となります。

今年度は将棋に加えて囲碁でも当部活動における女子の活躍は続きます。11月13日に開催された栃木県高等学校囲碁新人大会では、進学1の1の丸山榛菜さん(足利西中)が女子個人戦で優勝をし、同大会では本校十年ぶりとなる、関東大会への出場を決めました。格上相手にも果敢に勝負をする積極的なスタイルで、全国総合文化祭にて挙げた2勝を超える活躍も期待されます。

昨年度はコロナ蔓延防止の観点から全大会中止となつて消えた上位大会出場の出場切符でしたが、今年度は存分に生かし、活躍を胸に誓います。

### おめでとう！ 男女共同参画 キャッチフレーズ入賞

6月26日に足利市市民プラザにて、「令和三年度男女共同参画週間事業」で男女共同参画に関するキャッチフレーズの表彰式が実施されました。

本校からは、進学1の1の中田夏瑚さん(大泉西中)が、佳作で入賞しました。中田さんは、性別に関わらず、平等に責任や機会を分かち合い、あらゆる物事を一緒に決めていくことが必要だと考えて作ったそうです。作品はこちらです。



入賞した中田さん



表彰式の様子

### 税の作文入賞

租税教育の一環として募集している「税に関する作文」において本校の特進1の1の小野春菜さん(館林四中)、特進1の1の菊地愛生さん(白鷗足利中)の作品が入賞しました。小野さんは栃木県安足県税務署所長賞、菊地さんは足利税務署長賞を受賞しました。また、わたらせケーブルテレビにおける「税を考える週間特別番組」にも出演をし、作品の朗読を行いました。また、足利アピ



表彰式後の菊地さん(左)と小野さん(右)



展示された菊地さんの作文

富キャンExpress vol.32題字の右側のカモメのロゴは富田キャンパス文芸イラスト同好会の生徒の作品です。お忙しい中、原稿・写真等の協力ありがとうございました。

編集 富キャンExpress係  
発行 白鷗大学足利高等学校富田校舎  
足利市多田木町1067  
電話 0284-91-2633  
制作 足利印刷株式会社  
発行 令和4年1月5日



この「製品」のFSCラベルは、世界の森林資源の責任ある利用を保証します。

### 教頭挨拶 —夢は本当にはかないの?—

教頭 湯澤 昭子

みなさんこんにちは。私はこの4月から富田校舎の教頭をしています。湯澤と言います。よろしくお願ひいたします。

さて、中学生の皆さんは富田校舎(富キャン)や高校というものにどのようなイメージを持っているのでしょうか。夢や理想を実現する場所が高校でしょうか。また、本校在校生は、自分が中学生の頃や高校入学時に描いていた夢に向かって今を送ることができていますか。ここで私はこの「夢の実現」「夢を持つ」「将来の夢」ということについて少し記したいと思ひます。



中学生

「夢は何ですか?」とか「夢を持つて頑張りなさい。」などと言われる機会が増え、高校生になると、さらに現実味を帯びて、担任の先生や家族などの周囲の人々から言われるようになりまます。そればかりではなく、私などは富田校舎に奉職してから二十年近くたったある日、先輩先生から「あなたの夢は何ですか。」と聞かれ、こんな教師にはならないぞ、といったネガティブな教師像しかなかった私は、全く答えられず戸惑った記憶があります。

なぜ、私が「夢を持つ」「夢」について苦手意識を持っていたかという最大の理由は、おそらく「夢」という言葉のイメージがよくなくかつたからだと思います。

「夢」という語の入った言葉の代表的なものをいくつか挙げてみます。「炊(い)すい(の)夢」「人生の栄枯盛衰のはかなさのたとえ。」「栄華の夢」「人の繁栄は一時的なもので、長い期間続くことはないこと。」「邯鄲(かんたん)の夢」「人生の栄枯盛衰のはかなさのたとえ。」「他」「胡蝶(こちよつ)の夢」「見果てぬ夢」「夢

か現(うつ)か「等々たくさんありますが、概して「はかない」意味を含んでいるように思われます。「はかない」を漢字で記すと「儂(い)ん」となります。この漢字「いん」は「いん」に「夢」で、「はかない」。すなわち「人の夢は儂い」ということになりまます。自分の将来は儂いのか、それでも描くものなのかと考えていました。ですから、皆夢をきくのかと思つていたので。

そんな時、二〇一五年NHKの大河ドラマ「花燃ゆ」で吉田松陰の妹美和を取り上げていました。それをきっかけに私は吉田松陰に触れる機会をもち、その考えが変わりました。

吉田松陰は、幕末動乱の時代に長州藩(現在の山口県)で生を受け、思想家・教育者として活躍しました。しかし三〇歳で処刑されてしまつたわけですが、その間に「松下村塾(しよつかそんじゆく)」を開き、明治維新で重要な動きをする高杉晋作や伊藤博文ら多くの若者に影響を与えました。そこで松陰は「夢なき者に成功なし」という名言を残しました。本当に夢のない人は成功しないのでしようか。実はこの名言には前がありま

れば、成功するとは限りませぬ。しかし、成功する人に夢があるとはいえます。成功した人たちはみな夢を持っていました。全ての始まりは夢を持つことから始まります。しかし、成功する人は、夢を見るだけで成功するはずもなく、日々努力と挑戦を持続する実行力があるはずでです。(ここに白鷗大学足利高校の校訓「PLUS ULTRA」さらに向かう!)の精神に繋がるものがあると思ひます。

実行する人は今やるべき事を実行し、計画的に実行することが上手なのです。計画を立てられる人には鮮明なゴールがあり、それを理想として夢を描いているのです。

夢は決して儂いものではなく、理想を現実にし、実行するためには必要なエネルギーとなるのです。どうぞ、皆さん夢を持って計画し、実行する、中学校や高校生活を送つて下さい。



1年生対象の進路講演会の様子

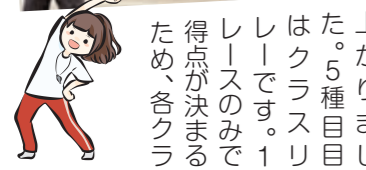




長縄とび



山勘レース



上がりました。5種目はクラスリレーです。1レースのみで得点が決まるため、各クラ

10月7日に富田校舎体育祭が行われました。夏のコロナ感染拡大を受け、9月前半が休校、後半も分散登校となり、開催が危ぶまれた時期もありましたが、先生方や生徒たちの努力の甲斐もあり、開催出来ました。昨年と同様、来賓や保護者の来校をご遠慮頂く、午前中のみ実施とするなどの感染防止対策がとられました。また短縮した形ではありましたが、1年生にとっては初めての、2、3年生にとっては最後の体育祭であるため、楽しむという雰囲気がいよいよと伝わってきました。

### 富田校舎体育祭2021 コロナ休校にも負けず

減らし6名で跳びます。各クラスとも朝や放課後に練習した成果を發揮し、一生懸命跳んでいました。2種目は障害物競争です。こちらでも感染対策として、パン食いが一球での玉入れに変わりました。この玉入れが難しく、足止めされる生徒が多くいました。足の速さだけでは勝敗が決まらないので、盛り上がりました。3種目は借り物競争です。タオルや水筒などの簡単なものから、サングラスなどの難しいものまで様々です。また、借りてくるのは「モノ」だけではありませんが、友人を連れてくる生徒、生徒会副会長を連れてくる生徒、クイズに答えられる人を探る生徒もいて、あちこちで笑い声が聞こえま

#### 令和3年度 富田校舎体育祭 結果

総合	優勝	特別進学コース2年2組
	準優勝	進学コース2年2組
	第3位	特別進学コース1年1組
学年	第1学年 優勝	特別進学コース1年1組
	第2学年 優勝	特別進学コース2年2組
	第3学年 優勝	進学コース3年2組

優勝は、特別進学コース2年2組。準優勝は進学コース2年2組、3位は特別進学コース1年1組でした。昨年以上に厳しい状況で行われた体育祭でしたが、楽しい思い出を残すことが出来ました。



障害物競争



女子全員によるダンス

今年の体育祭はコロナウィルスの影響により、昨年と同様に午前中のみ開催となりました。予定していた計画が崩れてしまったことはとても悔しかったです。しかし、9月の緊急事態宣言下で準備がほとんどできなかった中、体育祭を実施できたことは、多くの先生方や生徒会のみならずの多大な努力のおかげです。今、この場を借りて心より感謝申し上げます。

#### 努力・感謝・笑顔 特別進学コース3年1組 長島 知哉(白鷗足利中)



最優秀賞を受賞した黒杭君

6号館玄関に展示されている賞状と研究作品



黒杭君と研究作品

最優秀賞を受賞しました。黒杭君は5年前からアリジゴクの生態について研究を続けており、これまで巣の構造や摂食量と排泄物の関係について調査してきました。アリジゴクは地中で幼虫期を過ごした後、繭の中で蛹となり、その後脱皮して成虫になります。この研究では、捕食量や排泄量と繭づくりとの関係について調べました。継続的に研究を進めてきた点や、排泄物を固形化し定量化する工夫、繭づくりを始める時期の決定要因について様々な角度から考察している点が評価されました。最優秀賞受賞の記事は、読売新聞にも掲載されました。

#### 初の最優良賞受賞

進学1の2の黒杭功祐君(結城南中)が「アリジゴクの繭作りの要因を探る」というタイトルで、日本学生科学賞栃木県展覧会に研究成果を発表し、科学部では初となる



真剣に聴講する生徒たち

11月4日に、シーガルホールにて1年生を対象にJTB主催、SDGsワークショップ「Decade of Action」が行われました。これは、SDGsの概要を理解すること、なぜ、SDGsがこの世界に必要なかを自分なりに考えてみることを自分の行動としてつなげることを目標とした講演会でした。

### SDGs講演会

生徒たちは世界の現実と向き合い、真剣な面持ちで聴講していました。ワークショップでは、今の自分が何ができるかということを考えたり、友達と意見を交換し合ったりしていました。今地球が抱えている諸問題は私達の生活と直結しているものです。今回の講演会とワークショップを通じて感じたこと、考えたことを無駄にせず、100年後の地球を守るため、一人ひとりが今できることを少しずつ、実践してほしいと思います。



活発にワークショップを行う様子



### 2年生探究発表会

11月11日・13日に、シーガルホールにおいて、富田校舎第2学年による「進路探究講座発表会」が行われました。4月から「総合的な探究の時間」を使って課題の選定、情報収集の方法などを学び、7月からは希望の学部学科の分野に分かれてグループを作り、様々な論文を読んだり、大学の研究室の情報を調べたりして、テーマを決めました。コロナ禍のため、十分に時間が取れなかったり、関係機関に足を運ぶことが難しかったり、思うように進められないこともありましたが、各グループ工夫しながら取り組んでいました。

### 1年生探究発表会

11月18日に第1学年における探究発表会が各教室において行われました。1年生にとっては初めての探究発表ということもあり、今回はクラス単位での発表にとどまりました。しかし、クラス内での各発表の発表において、クラスメイトからの忌憚のない質問や意見などが活発に出され、各班とも次の数理探究の活動に活かせるような良い経験ができた様でした。

た。パワーポイントを使用し、グラフや写真を示しながら伝えるなど、発表は各グループ特色のあるものになりました。最後に生徒による投票が行われ、最優秀賞に選ばれたのは、シリアの内戦と難民の置かれている現状について調べた「シリア内戦と難民のために私たちができること」、「校則についてのアンケートを実施し、データをまとめた「これってブラック校則?」でした。他にも



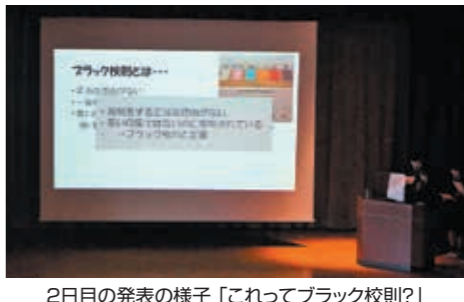
「温泉を日常の中に」



「睡眠実体とノンレム・レム睡眠」



1日目の発表の様子「シリア内戦」



2日目の発表の様子「これってブラック校則?」

で行ったことは、次の数理探究発表への良い経験であったことは各クラスの発表の様子からも間違いなく感じられました。